

第1ステージの総仕上げ(具体的対応方針の合意)(案)

【資料4】

○令和4年度に実施したアンケート結果

・平成28年5月以降、病床の転換・廃止を行っていない医療機関で、病床を再編すると回答した医療機関は0。

○2025年に向けての課題は残る

- ・必要病床数に対して病床過剰 (+552)
- ・回復期病床の不足 (△543)

○一方で、2022年度2023年度において、地域医療構想に係る民間の医療機関を含めた各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しを行うことになっている。

以下の医療機関の病床については、具体的対応方針として合意することとしてはどうか。

①具体的対応方針合意案

- ・病床機能報告で回復期のみと回答している医療機関の病床は合意。
別紙No. 1～No. 3の3医療機関
- ・病床機能報告で急性期と回答している医療機関のうち、地域密着型の役割を担う医療機関については、
急性期(地域密着型)と整理したうえで合意。
- ・地域として合意すべきと判断した医療機関については合意。
(分娩を取り扱う病床や重心病床など)

②①で合意に至らない医療機関の病床への対応案

- ・非稼働病床については引き続き効率化を目指す。
- ・病床機能報告については、定量的基準を参考に病床機能の報告を行う。

地域密着型の役割を担うとは

○基準のある例

- ・地域密着型協力病院
- ・在宅療養支援病院(診療所)
- ・在宅療養後方支援病院
など

○明確な基準のない例(今後基準について検討)

- ・軽症患者の救急受け入れ(在宅医療との連携)
- ・急性期病院からの転院患者受け入れ
- ・在宅復帰に向けた医療を提供
- ・在宅医療の実施
- ・訪問看護の実施
- ・在宅患者の入院受け入れ
- ・入退院支援・介護連携の充実
- ・人生の最終段階における医療への対応
など

当面の病床機能転換等の一覧（和歌山保健医療圏構想区域）

資料 4

No.	医療機関名	今後の役割・方向性 令和4年 4月～5月 「2025年に向けた対応方針アンケート」より	機能転換等の内容 (一般病床・療養病床)		転換等の時期 (見込)
1	古梅記念病院	【B】救急拠点型 (年間100件以上の入院を要する 救急患者受入れ)	転換	急性期病床のうち、地域一般入院基本料3の80床を76床、 地域包括ケア入院医療管理料2の30床を34床に転換 <転換後の機能別病床数> 急性期110床	令和6年4月
2	辻整形外科	【C】地域密着型 (軽症患者の救急受入、 急性期病院からの転院受入、 在宅復帰へ向けた医療など)	廃止	急性期病床19床を廃止 <廃止後の機能別病床数> 0床 (▲19床)	令和6年4月
3	独立行政法人労働者 健康安全機構 和歌 山ろうさい病院	【A】救急拠点型 (重症患者の救急受入れ、 高度・専門医療など)	転換	急性期病床50床を高度急性期病床へ転換 <転換後の機能別病床数> 高度急性期 100床、急性期203床	令和5年10月

【様式2】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名

古梅記念病院

現在の病床機能【概要】				
<令和5年7月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期				
急性期	2	地域一般入院基本料 3 地域包括ケア入院医療管理料 2	80 30	50.0%
回復期				
慢性期				
計	2	—	110	—
(備考)				



今後の病床機能				
<令和6年4月以降予定>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
高度急性期				
急性期 (回復期)	2	地域一般入院基本料 3 地域包括ケア入院医療管理料 2	76 34	
回復期				
慢性期				
計	2	—	110	
(機能転換・病床数変更等の概要)				
3 F 病棟53床 地域一般入院基本料 3 23床、地域包括ケア入院医療管理料 2 30床 ⇒ 地域一般入院基本料 3 19床、地域包括ケア入院医療管理料 2 34床				

現在の病床機能【詳細】
<p>当院は2次救急患者の受入れを中心に、地域や当院関連の高齢者施設からの容態変化のある救急患者も、積極的に受入れを行っている。また、乳がんの手術や抗がん剤治療、全身麻酔における整形外科手術も行っている。</p>



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
<p>地域の介護施設や一般患者のレスパイト入院等の受入れを積極的に行うための病床機能としていきたい。</p>

単独病床機能再編計画

医療機関名 辻整形外科

機能区分	① 平成30年度 病床機能報告				② 令和2年4月1日時点				③ 現行（令和●年●月）				④ 病床機能再編後（令和6年4月1日～）			
	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数 (見込)
高度急性期																
急性期	1	有床診療所 入院基本料 1	19	19									0	なし	0	0
回復期																
慢性期																
分類なし (休棟等)		—		—		—		—		—		—	—	—	—	—
計 (一般病床+療養病床)	1	—	19	19		—				—			0	—	0	0
変更の概要													無床化			

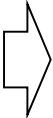
(①注) 平成30年度病床機能報告から転記する。
「病棟数」は病院のみ記入する。

(②注) 令和2年3月31日までの間に病床機能・病床数を変更した場合に記載する。

(③注) 令和2年4月1日以降に病床機能・病床数を変更した場合に記載する。

当院における現在の病床の状況、再編理由、
構想区域の現状・課題など 【詳細】

当院は有床診療所（19床）で今日まで救急診療所として地域の救急医療等を担ってまいりましたが、2025年度の和歌山県保健医療圏構想で海南、海草地域における急性期医療は設備の整った救急告示病院で担って頂くのが妥当と考え、今後の人口減少を加味した結論です。



病床機能再編後の当院の体制・あり方

当院は病床を廃止し外来診療で救急告示病院と連携し海南、海草地域における病床機能再編後の診療を担ってまいります。

【様式2】病床機能の転換・病床数の変更等について

医療機関名 独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院

現在の病床機能【概要】				
<令和5年 5月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率
高度急性期	2	特定集中治療室管理料3、急性期一般入院料1	50	81.4%
急性期	5	急性期一般入院料1	253	81.6%
回復期				
慢性期				
計	7	—		—
(備考)				



今後の病床機能				＜令和 5年 10月以降＞
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	(定員)
高度急性期	3	特定集中治療室管理料 3、急性期一般入院料 1	100	
急性期	4	急性期一般入院料 1	203	
回復期				
慢性期				
介護医療院				
計	7	－	303	
(機能転換・病床数変更等の概要)				

現在の病床機能【詳細】
<p>当院は、高度急性期病床としてICU病床6床とストロークホットラインを受入れ脳卒中ケアに特化した病棟44床の計50床と、急性期病床（急性期一般入院基本料1）253床を有する許可病床303床の急性期総合病院である。</p> <p>和歌山市の河北、河西地区に位置し、地域の中核病院として地域医療連携医療機関を支援し、地域医療支援病院の役割を果たすべく、高度な地域医療を推進している。</p>



機能転換・病床数変更後における病院・診療所のあり方
<p>令和4年度より、地域連携医療機関の医師からの要請に対し、救急医師、救急看護認定看護師などで構成された救急搬送チームが当院の救急車に同乗して迎えに行き搬送中の患者急変に備えた救急車で、状態の不安定な患者に早期の救急医による医療介入を実施して、地域医療機関の負担軽減や患者の安全に貢献し、和歌山県が提示している定量的基準である閾値をクリアしている。</p> <p>安全に配慮した患者の入院医療環境体制を整備するため、現在受入れ実施している1つの病棟50床についてのみ、急性期病棟から高度急性期病棟への転換を図る。</p>